

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : テトラリン

会社情報

会社名 : 関東化学株式会社
住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門 : 試薬事業本部 企画管理部 資料課
電話番号 : (0120)260-489
FAX番号 : (03)3241-1047
メールアドレス : BC32@kanto.co.jp

整理番号 : 40074
推奨用途 : 試験研究用
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	引火性液体	区分 4
健康有害性	急性毒性（吸入：蒸気）	区分 2
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（血液）
環境有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 2

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 可燃性液体
皮膚刺激
吸入すると生命に危険
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（血液）
水生生物に毒性

注意書き

安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
ミスト／蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

応急措置 : 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。

- 保管
- ： 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 - ： 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
 - ： 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
 - ： 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 - ： 換気の良い場所で保管すること。
 - ： 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 - ： 施錠して保管すること。
- 廃棄
- ： 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別
- ： 物質
- 別名
- ： 1, 2, 3, 4-テトラヒドロナフタレン

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
テトラリン	≥ 95	C10H12	4-574	既存化学物質	119-64-2

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合
- ： 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合
- ： 汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の処置を受ける。
- 眼に入った場合
- ： 直ちに流水で十分に洗い流す。
- 飲み込んだ場合
- ： 揮発性があるので、吐き出せるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤
- ： 粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡
- 使ってはならない消火剤
- ： 水
- 消火方法
- ： 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
 - ： 消火作業は、風上から行う。
 - ： 初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火を行う者の保護
- ： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置
- ： 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項
- ： 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。
作業場所の換気を十分行う。
- 安全取扱注意事項 : みだりにエアロゾル、蒸気が発生しないように取扱う。
酸化剤と接触させない。

保管

- 安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。
- 安全な容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	設定されていない

- 設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

- 呼吸用保護具 : 必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 無色 - 淡黄色
- 臭い : メントール
- pH : データなし
- 融点 : -35.8 °C
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 207.6 °C
- 引火点 : 71.6 °C (C.C.)
- 自然発火点 : 385 °C
- 分解温度 : データなし
- 可燃性 : 引火性
- 蒸気圧 : 50 Pa (25°C)
- 相対密度 : 0.965 - 0.975 (20/20°C)
- 密度 : データなし
- 相対ガス密度 : 4.6

溶解度	: 水: 難溶。有機溶媒: メタノール: 50.6%。エタノール、エーテル、ベンゼンに可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: 3.78
爆発限界 (vol %)	: 0.8(100℃) - 5.0(150℃) vol% (空气中)
動粘性率	: 2.08 mm ² /s (20℃)
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性	: 通常条件下で安定である。
危険有害反応可能性	: 空气中に長期間放置すると過酸化物が生成し、爆発する危険がある。
避けるべき条件	: 日光、熱。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない ラット LD50=2860 mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない ウサギ LD50=16800 mg/kg
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない (気体) 吸入すると生命に危険 (蒸気) モルモット LC50=389 ppm/4h 分類できない (粉じん、ミスト)
皮膚腐食性/刺激性	: 皮膚刺激 ウサギを用いた4時間適用の皮膚刺激試験 (OECD TG404) において平均ドレイズスコアは紅斑3.11、浮腫1.56で中程度の刺激性とされ14日まで炎症が残る。またEUのリスク警句はR36/38で区分2相当であることから区分2と判断した。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分に該当しない ウサギを用いたDraize試験 (OECD TG 405) で平均スコア5.17/110、6日以内に完全に回復しno significant irritatingとされ、他のウサギを用いた試験の結果は0.5 ml 処理で、スコア1/10、slightly irritating、no damageとされていることから区分に該当しないと判断した。
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分に該当しない モルモットを用いたmaximization test (OECD TG406) において感作性なしの記載より区分に該当しないと判断した。
生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない マウスの強制経口投与による小核試験で陰性、マウスの吸入ばく露 (6時間・13週) による小核試験で陰性 (いずれも体細胞 in vivo 変異原性試験) の結果より区分に該当しないと判断した。
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない ラットを用いた発生毒性試験 (OECD TG414) において仔の発生に対する影響は確認されていない。マウスの13週間吸入ばく露 (6時間・5日/週) 試験において子宮及び卵巣の萎縮が認められているが、性機能および生殖能に関する試験データがないことからデータ不足により分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 眠気又はめまいのおそれ ラットの経口投与試験において2,000 mg/kgの用量以上で不活発、prostration、昏睡の症状が認められ、ヒトにおいて頭痛、混迷などの症状が報告されていることから区分3 (麻酔作用) とした。

- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(血液)
 ラットを用いた 28 日間経口投与試験において 150 mg/kg/day で溶血性貧血が見られ、投与終了 2 週後も持続し、二次的影響として網状赤血球数の増加と脾臓における髄外造血の増強が報告されている。一方、ラットあるいはマウスに 13 週間吸入ばく露した試験でも主として 0.333 mg/L および 0.666 mg/L の濃度で、再生性貧血あるいは赤血球数減少を含む血液指標の変化が報告されている。以上の結果により、溶血性貧血またはそれに関連する症状の発現用量、即ち 28 日間の経口ばく露における 150 mg/kg/day (90 日補正: 46.7 mg/kg/day)、および 13 週間の吸入ばく露における 0.333 mg/L~0.666 mg/L がいずれもガイダンス値区分 2 の範囲に入ることから、区分 2 (血液) とした。
- 誤えん有害性 : 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

- 水生環境有害性 短期 (急性) : 水生生物に毒性
 魚類(ゼブラフィッシュ) LC50=3.2 mg/L/96h
- 水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない

残留性・分解性

良分解性
 BOD : 81%

生体蓄積性

低濃縮性
 BCF : 118 - 237 (0.38 mg/L), 147 - 536 (0.038 mg/L)

土壤中の移動性

追加情報なし

オゾン層への有害性

- オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 2810
 正式品名 (IMDG) : TOXIC LIQUID, ORGANIC, N.O.S.
 容器等級 (IMDG) : II
 輸送危険物分類 (IMDG) : 6.1

航空輸送 (IATA)

- 国連番号 (IATA) : 2810
 正式品名 (IATA) : Toxic liquid, organic, n.o.s.
 容器等級 (IATA) : II
 輸送危険物分類 (IATA) : 6.1

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー : Y

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
その他の情報 : 補足情報なし
緊急時応急措置指針番号 : 153

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2）（2026年4月1日以降）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2）（2026年4月1日以降）
1, 2, 3, 4-テトラヒドロナフタレン

毒物及び劇物取締法 : 非該当

消防法 : 第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1）

海洋汚染防止法 : 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1）

船舶安全法 : 毒物類・毒物（危規則第2, 3条危険物告示別表第1）

航空法 : 毒物類・毒物（施行規則第194条危険物告示別表第1）

港則法 : その他の危険物・毒物類（毒物）（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）

道路法 : 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） : 非該当

16. その他の情報

参考文献 : NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHIRIP）、独立行政法人製品評価技術基盤機構。
化学大辞典 共立出版社（1963）。
有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社（1985）。
国際化学物質安全性カード（I C S C）日本語版、化学工業日報社（1992）。
溶剤ハンドブック、浅原照三 他編、講談社（1976）。

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート（SDS）は、JIS Z7253に基づいて作成しております。